

整理番号

事業名 小金井子育て・子育て支援ネットワーク事業「脱 孤育て・孤育ち～地域で子どもを育む取組～」

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、 <u>200字以上～300字以内</u> で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>①「脱 孤育て・孤育ち～地域で子どもを育む取組～」というスローガンについては、講演会・学習会の開催や各参加団体の活動の折りに、リーフレットなどの配布とも合わせて浸透を図り、地域で連携して取り組むことの大切さが認識された。</p> <p>②サイトの構築・運営による協働事業の増加は達成された。(市民レポートにより事業の広報・報告も功を奏し、共催事業が増えた)</p> <p>③人材育成事業に助成が行われたことにより、子育て支援活動に関わる人材が増加し、協議会の運営に対する理解が深まっている。</p> <p>④子育て・子育て支援に関わる団体等の連携支援体制は、確実に広がり、協議会としての活動の重要性が自覚された。</p>	4
2	市民性	<p>協議会ができるまでは、子育て・子育て支援活動団体は、それぞれ組織があることは知っていたという程度で、団体間のネットワーク化はされていなかった。具体的に協議会を立ち上げることができ、加盟団体は44団体に増え、行政との協力体制も深まり、互いに連携を取ることで相乗効果を生むことが認識された。</p> <p>また、子育て・子育て支援サイト「のびのび～の！」の構築・管理運営において、東京学芸大学関係者のコラムや市民レポーターのコーナーの充実などもあり、フェイスブックなどでつながる一般市民も増えるなど、市民が自らの地域を自分たちの力で充実発展させていこうとする機運に寄与できた。</p>	4
3	波及効果	<p>行政と関係機関・関係市民活動団体のネットワークを図り、活動を続けてきたことにより、協働することで、より効果的な活動ができるという認識は確実に深まった。市内の他分野へも、その認識は広がりつつあり、また様々な広報等により、他の地域との連携も図られつつある。</p>	4
4	継続性	<p>小金井子育て・子育て支援サイト「のびのび～の！」の管理運営と事務局事務費については、平成25年度以降、行政からの補助金がついた。協議会は、これまでの経過から積極的に関わろうとする団体が増えたこともあり、意欲的に取り組む体制がとれている。また、協議会参加団体のみではなく、子育て・子育て当事者からも協議会に関わろうとする市民も増えた。</p>	4
5	マルチステークホルダー・プロセス	<p>協議会事務局を小金井市市民協働支援センター準備室という中間支援組織が担う事で、安定的に協働して事業を遂行することができ、各団体間の連携に効果があった。行政、関係機関、関係活動団体がネットワークを組むことで、共催事業が増えた。また、それぞれの立場からの視点で検討を重ねたり、連携を図ることで、活動がより充実し幅広い取り組みが可能になり、その過程で共通認識を深めることができた。今後に期待できる。</p>	5

合計点

21

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

ランク

S

1

2

3

4

5

6